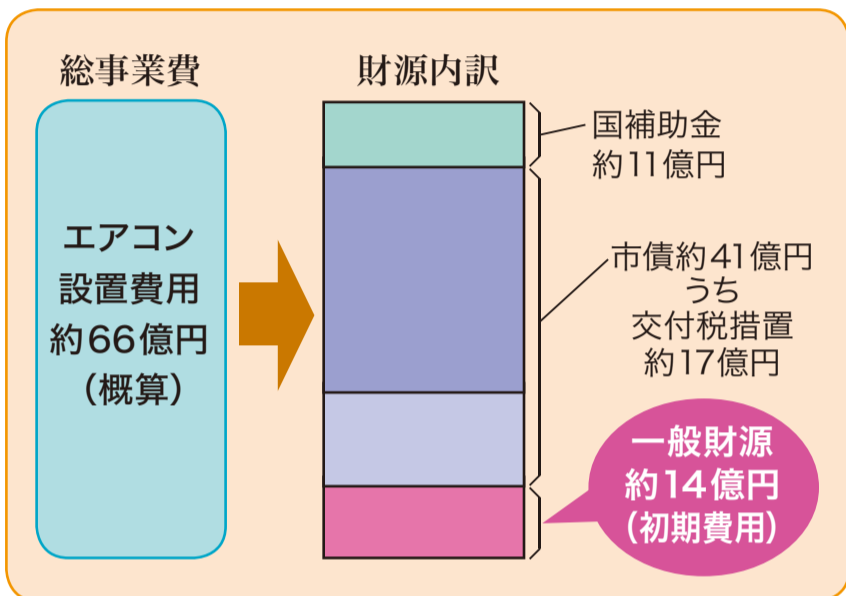


学校のエアコン設置が前進

市民との共同で市政を動かす！

今年の夏は、「災害級の暑さ」「命の危険に関わる暑さ」と言われるほどの猛暑となりました。小中学校の普通教室にエアコン設置を求める市民の大きな声と党市議団の議会論戦が市政を動かし、学校空調設備設置基本計画を策定するための補正予算が可決しました。

市長 → 2020年度末(2021年3月)までに整備
 来年夏に全教室に設置を要求 ← **共産党**



パラスポーツへの理解促進のためにボッチャを体験する党市議団(10月4日)

市長は「2020年度末(2021年3月)までに設置する」と説明しているため、全教室で利用できるのは3年先になります。党市議団は「来年夏に全教室は設置するため必要な予算66億円を追加し、臨時議会を開くことを要求するとともに、「現状の制度でも、初期費用は約14億円でスタートでき、市が負担する市債はエアコンの耐用年数15年で割賦返済になるので財源確保は可能」と、具体的な財源対策を示しました。

2017年度決算に反対 難病見舞金や高齢者・長寿祝い金の復活など福祉向上を求めました

2017年度決算について、党市議団は、「市民には国保料値上げなどの負担増と福祉削減を行い、熊谷市政スタートから2017年度決算まで、難病見舞金廃止や高齢者祝い金削減など280件・約142億円、国民健康保険事業への繰り入れ見送り27億6千万円、家庭ゴミ有料化51億円など、合計220億8千万円の福祉カットと負担増を押しつけたもの。大型開発53件を実施し、約252億円の多額の財政を注ぎ込んでいる」と批判しました。大型開発優先の市政を転換して、子どもの命にかかわるエアコン設置を何よりも急いで行うよう求めました。



豪華と批判されている新庁舎シティーホール予想図

市民の健康増進へ

受動喫煙防止条例が全会一致で可決



たばこによる健康被害をなくし、市民の健康を増進する「受動喫煙防止条例」が成立しました。市内飲食店の66%が喫煙禁止の対象となり、未成年者や従業員は受動喫煙を避けることができます。党市議団は昨年に条例提案し、制定をリードしてきました。

子どもルーム指導員不足

給与などの改善こそ必要です



市は指導員不足を理由に、一部のルームについて千葉市社会福祉協議会の運営から民間事業者に変えています。現在の給与を抜本的に改善しなければ、指導員を募集しても集まりません。処遇改善が必要です。